

小学校編 テーマ4 どうしたら本を読むようになるのかな

読書によって子どもの感性が磨かれ、思考力、判断力、表現力が高められると言われています。

読書が好きと答える子どもの割合は、年齢が上がっても7割前後で変わりませんが、実際には読書をしない子どもが増えていきます。どうしてそうなるのでしょうか。

理由はいろいろ考えられると思います。交友関係が広がり、ゲームやスマホに時間を取られ、クラブ活動に参加し、やがて受験勉強に追われるようになります。

成長とともに読書以外のことに興味を引かれ、時間を取られてしまうのは仕方がない一面もあります。ただ、仕方がないと言って何もしなければ、今は読書の好きなあなたのお子さんも、やがて読書から遠ざかってしまうかもしれません。

何も難しいことに取り組む必要はありません。ちょっとした工夫で子どもと本の距離は近くなります。また、本が親子のコミュニケーションのきっかけになったりもします。大切なのは、子どもに強制するのではなく、読書が楽しいものだと思えることだと思います。保護者の皆さんも、ぜひ読書を楽しんでください。

なお、全国学力・学習状況調査の結果を、普段（月～金曜日）の読書時間が、1日当たり10分以上の子どもと、10分より少ない子どもで比較してみると、国語A（主として「知識」に関する問題）、国語B（主として「活用」に関する問題）共に、普段の読書時間が10分以上の児童の平均正答率が高くなっています。

読書を楽しみながら学力も上がればいいですね。



<子どもが本を読むために、各家庭でこんな工夫がされています>

子どもに本を読んでもらうために、いろいろな工夫をされているご家庭があります。例えば、次のような例がさまざまところで紹介されています。

～読み聞かせ～

子どもが生まれてすぐから読み聞かせを始めて今まで続けてきたところ、今では上の子が親をまねて、下の子に絵本を読んであげています。



～本が身近になる環境づくり～



子どもが気づくところに本や新聞を置いておいたところ、自分から進んで読むようになり、自然に習慣化されました。

誕生日やクリスマスに本をプレゼントしています。



毎月第1金曜日をノーテレビ・ノーゲームデーにすると家族で決めています。空いた時間を読書にあてることも多く、家族の会話では自然に本の話題になることも多くなっています。

～読書を楽しむ～

親が本を好きなこともあり、普段からよく本を読んでいます。親の姿を見て子どもも本に興味を持ったようで、自然に本を手取るようになりました。



夫婦で、互いに読んだ本の感想を話し合っています。それを見て、子どももその本に興味を持つことがあります。

親子で同じ本を読んでから後で感想を話し合っています。意外な感想を聞いて盛り上がりたりして、家族のコミュニケーションの時間になっています。



<全国学力・学習状況調査(平成28年度)結果(三重県)>

「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」という質問に、各選択肢を選んだ児童の平均正答率

選択肢	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
		国語A	国語B
10分以上の児童	62.4	74.1	60.8
10分より少ない児童	37.5	67.9	53.6

国語A(主として「知識」に関する問題)、国語B(主として「活用」に関する問題)共に、普段の読書時間が10分以上の児童の平均正答率が高くなっています。



家庭読書に関するQ&A

Q 字が読めるようになっても本を読んでもらいたがりますが、いつまで読んであげるのが良いのでしょうか。

A 「読んで」と言ってくる間は、読んであげてください。子どもが読んでもらいたがるときは、その本自体をお気に入りなのに加えて、一緒に世界を楽しみたいという思いもあります。このようなふれ合いが心に残り、文字が読めることよりももっと大切な、豊かな心が育まれていきます。

Q 文字が少ない本ばかりを読みたがります。(活字を読まずにマンガばかり見えています。) もっと活字の多い本を読ませたいのですが、どうしたらいいでしょう。

A 本を読むことが楽しいということが大切です。文字は少なくとも内容が自分の興味とぴったりと合っていたり、ストーリーの展開に引かれたり、言葉やそのリズムが面白かったり、絵が魅力的であったりと、自分なりにその本の良さを見つけているのでしょう。本が好きになっていくことから、文字への興味がふくらんでくることと思います。

Q どんな本を子どもに薦めればいいのかわかりません。

A お近くの公立図書館の司書さんに気軽に相談してみましょう。図書館では児童書も貸し出していますし、お子さんの年齢や興味に応じた本が紹介してもらえらると思いますよ。

